

(1) 滋賀らしい国民体育大会および全国障害者スポーツ大会の開催について

— 競技力向上対策について —

1 これまでの取組経過

平成26年12月に滋賀県競技力向上基本計画を策定し、この基本計画に基づき県、県教育委員会、市町、スポーツ・障害者スポーツ、教育関係、経済産業関係、学識経験者など幅広い主体の参画を得て、総合的・計画的に本県競技力を向上させるために滋賀県競技力向上対策本部を平成27年3月に設立。平成28年3月に基本計画に基づく推進方策を示した競技力向上推進計画を策定した。

- 平成26年12月 滋賀県競技力向上基本計画の策定 (資料3-1)
- 平成27年 3月 滋賀県競技力向上対策本部の設置 (本部長：副知事)
- 平成28年 3月 滋賀県競技力向上推進計画の策定 (滋賀県競技力向上対策本部にて)

2 現状

年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
開催県	66回 山口	67回 岐阜	68回 東京	69回 長崎	70回 和歌山
天皇杯順位	34位	32位	40位	35位	24位
総合得点	825.0点	819.0点	763.83点	810.5点	940.0点

3 平成28年度の競技力向上対策 (資料3-2)

【主な取り組み】

(1) 「2024 滋賀国体強化拠点校」の指定について

少年種別の競技力向上において、高校の運動部単位での強化が有効と考えられる競技について強化拠点校を指定し、集中的に競技力の向上を図る。

◇強化拠点校の特徴

- ・優秀選手の確保 (入学者選抜制度を活用した選手の確保)
- ・優秀指導者の確保 (教員の適正配置)
- ・強化事業の充実 (強化費の重点配分)
- ・競技環境の確保 (競技用具の整備等)

◇強化拠点校の選定基準

以下のいずれかの条件を満たす学校

- ①過去5年に高い競技実績がある (個人・・・全国大会での入賞者が複数人いる)
(団体・・・全国大会出場が複数回ある)
- ②滋賀県体育協会から高等学校運動部指定強化対策事業の指定を受けている
- ③新たに部を設置して強化を図ることが有効であると考えられる学校
- ④国体会場地など、市町からの要望がある学校
- ⑤競技力向上対策本部が特に必要であると判断する学校

※こうした基準をもとに、競技団体と学校の意向を確認しながら指定校を選定していく

◇平成28年度指定校 伊吹高校 男子ホッケー部、女子ホッケー部
水口高校 ライフル射撃部 (2校3部)

◇平成29年度指定校 21校35部 (資料3-3)

◇今後の予定 平成31年度までに、延べ100校100部程度を指定する予定

(2) 次世代アスリート発掘育成プロジェクトについて

県内の運動能力に優れた子どもたちを早期に見出し、各種育成プログラムを実施することにより、将来全国大会や世界大会で活躍できるトップアスリートを輩出する。

◇第1期生36名が修了。

うち9名が育成プログラムの競技体験を通じて出会った競技に本格的に取り組み始めた。
(フェンシング・ウェイトリフティング・アーチェリー・ボート・陸上)

滋賀県競技力向上基本計画

(概要版)

目標

計画の着実な推進のためには、明確な目標の設定が必要と考えられることから、滋賀県競技力向上基本計画の目標を

●第79回国民体育大会における男女総合優勝である天皇杯獲得

とします。あわせて、以下の2点を目指します。

○平成27年から平成36年までの10年間にオリンピック・パラリンピックなどの国際大会に出場する本県出身の選手30人以上の輩出

○国体終了後も本県の競技スポーツの発展に努め、国体を契機に高めた全国トップレベルの競技水準の定着

これらの目標達成に向けた取組を通じ、県民が夢や希望を育み、活力ある元気な滋賀を実感できる、幸福で豊かな共生社会の実現を目指します。

本県の競技力の主な現状

○第68回国民体育大会（平成25年）の天皇杯順位 40位、天皇杯得点 763.8点。

○全国高校総合体育大会 入賞数 20、全国中学校総合体育大会 入賞数 21。

○滋賀県出身のオリンピック・パラリンピック出場者数、過去5大会で17名。
 ≪トリノ：1名 北京：5名 バンクーバー：2名 ロンドン：7名 ソチ：2名≫

段階的目標

平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年	平成32年	平成33年	平成34年	平成35年	平成36年	平成37年～
10年前	9年前	8年前	7年前	6年前	5年前	4年前	3年前	2年前	1年前	開催年	開催後～
長崎	和歌山	岩手	愛媛	福井	鹿児島	茨城	三重	栃木	佐賀	滋賀	
オリンピック パラリンピック	リオデジャ ネイロ		ピョンチャン		東京		未定		未定		

滋賀県競技力向上対策本部（仮称）										
準備期	充実期			躍進期			天皇杯獲得	継続期		
強化拠点の構築	アスリートの育成			アスリートの実力向上			競技水準の定着			
指導者の確保	躍進期の選手育成を支える指導者の確保			強化スタッフ体制の確立						
国体目標点数：1,000点	計画見直し	国体目標点数：1,200点			1,500点	1,600点		1,800点	2,400点	1,200点
国体目標順位：20位台		国体目標順位：10位台			10位以内	8位以内		5位以内	優勝	15位以内
インターハイ入賞数：30	計画見直し	インターハイ入賞数：40			50	60	80	100	50	

選手が伸びる

課題

- 優秀な選手が県外に進学する
- 成年選手が競技を継続できない
- 明確な目標が選手に必要
- 女性選手の競技継続が難しい
- 障害者スポーツの選手確保

対策・取組

選手の育成強化

- ①ジュニア選手の発掘・育成・強化
- ②成年選手の育成・強化・確保
- ③オリンピック・パラリンピック候補選手の活動支援
- ④女性アスリートの育成・強化
- ⑤障害者スポーツの普及・選手の拡大

選手を伸ばす

課題

- 指導者の高齢化・指導者不足
- 指導者の資質向上
- 組織的な指導体制の構築
- 女性指導者の不足
- 障害者スポーツの指導者不足

対策・取組

指導体制の充実

- ①指導者の確保
- ②指導者の養成・資質向上
- ③組織的な競技力向上の推進



滋賀県の 競技力向上を 図るには！

トップアスリート育成

オリンピック・パラリンピック出場

国体・全障大会 入賞

国体・全障大会 出場

全国大会 出場

近畿ブロック大会 出場

滋賀県予選突破

滋賀県予選大会 出場

県民総スポーツの祭典・県障害者スポーツ大会出場
競技スポーツに親しむすべての県民

課題

選手を支える

- 各競技の強化活動を効果的に行う必要がある
- 滋賀県の自然環境を活かした競技種目の重点強化が有効
- 選手の競技活動を支える環境の整備が必要
- 県全体で競技選手を応援する機運の醸成

対策・取組

強化拠点の構築・環境の整備

- ①強化拠点の構築
- ②施設の整備・競技用具の充実
- ③医学科学サポート体制の整備

- ④選手・指導者の参加体制の整備
- ⑤交流・連携の促進
- ⑥広報を通じた県民の機運醸成



平成28年度 競技力向上対策の取り組み

H27年度の状況

- 天皇杯順位 24位
- 高校生年代に軸足をおいた競技力向上の取組により、少年種別の得点は、過去10年で最高得点。
- 成年種別では、下降傾向であった得点が、H27年度は持ち直し、過去10年で5番目の得点。
- ブロック国体の突破率は過去10年で最高(40.0%)。

得点源となっている競技を
強化の軸に

準備期の最終年度
充実期の準備年度

得点のとれていない
競技への対策強化

H28目標

天皇杯順位
20位台維持

ブロック国体
突破率
40%以上

選手の育成・強化

◇少年種別の強化活動をさらに充実

- ・次世代アスリート発掘育成プロジェクト
- ・ジュニア選手強化対策事業
- ・中高体連育成強化対策事業

◇成年種別の得点低下傾向に歯止め

- ・成年選手強化対策事業
- ・ふるさと選手支援事業
- ・オリンピック・パラリンピック支援事業

◇新正式種目への対策・競技団体の組織強化

- 女子種目を中心に正式種目となる新しい競技種目の強化に着手するとともに、競技団体の組織強化を図る。
- ・競技団体の組織強化
 - ・女性アスリート指導者支援事業

指導体制の充実

◇競技団体ごとの取組課題を明確化

- 競技団体強化プロジェクトチーム会議を定期的開催する。
- ・強化スタッフ育成事業

◇すべての競技団体が指導力向上事業を実施

- ・指導者養成アドバイザーコーチ事業
- ・優秀指導者養成事業
- ・国体コーチ支援事業

拠点の構築・環境の整備

◇成年選手の活動基盤の充実・少年種別の強化拠点の指定

- ・湖上スポーツ育成強化対策事業
- ・拠点チーム指定強化事業
(中高等学校運動部指定強化事業)
- 新(強化拠点校重点事業)
- 新(大学・企業・クラブチーム)

◇安定した競技実績継続のための競技用具充実

- ・特殊競技用具整備事業
(ボート・タンブリングトランポリン)

◇サポートの充実とアスリートの活躍周知

- ・医科学サポート事業
- ・アスリート広報事業

競技力向上対策本部事務局運営

競技力向上推進計画のもと、競技団体との定期的な会議を開催するなど、着実に各種事業を推し進める。

特別支援学校における障害者スポーツの振興

現状と課題

特別支援学校に部活動は設置されているものの、種目が限られているとともに、卒業と同時に競技を離れる選手が少なくない。

◇パラスポーツ・チャレンジプロジェクト

- ①特別支援学校の運動部活動の充実 【競技用具充実】
- ②合同練習会への専門的指導者の派遣 【指導者報償費等】
- ③特別支援学校体育大会の開催 【会場使用料、バス借上】

平成29年度 競技別 2024滋賀国体強化拠点校

競技		学校名		
陸上	男女	草津東	大津商業	彦根翔陽(翔西館)
水泳(水球)	男	長浜北星		
サッカー	男	草津東	野洲	
	女	八幡商業		
テニス	男	光泉		
ボート	男	瀬田工業		
	女	大津	八幡商業	
ホッケー	男	伊吹		
	女	伊吹		
体操(体操)	男女	栗東		
バスケットボール	男	光泉		
	女	滋賀短付属		
レスリング	男女	栗東	日野	
ウェイトリフティング	男女	安曇川	堅田	
ハンドボール	男	近江兄弟社		
	女	立命館守山		
フェンシング	男女	玉川		
ソフトボール	男	栗東		
ライフル射撃	男女	水口		
剣道	男	草津東	八幡工業	
	女	草津東		
ラグビーフットボール	男	光泉		
カヌー	男女	大津	八幡商業	八日市南
アーチェリー	男女	草津東	大津商業	
アイスホッケー	男	光泉		
合計			35	